

『第46回日本放射線技術学会秋季学術大会～震災から7年 復興と放射線技術学～』を開催しました（2018/10/4-6）

テーマ：放射線技術、東日本大震災、震災展示、被災地スタディツアー
会場：仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区）

2018年10月4日から6日にかけて『第46回日本放射線技術学会秋季学術大会～震災から7年 復興と放射線技術学～』を千田浩一教授（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）が大会長、稲葉洋平助教（同分野）が実行委員として開催・運営しました。当学会には、診療放射線技師をはじめとして医師、看護師などが約2000名以上参加しました。演題数は、口述発表396題、ポスター発表60題の計456演題で、その他シンポジウムや教育講演など3日間に渡って開催されました。機器展示では、約50社がそれぞれのブースで医療機器などを展示し、後援である東北大学災害科学国際研究所の展示ブースも設けました。

6日には、当研究所の佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が医療情報部会企画で「大学病院におけるBCPの策定と改訂」について教育講演を行いました。また当学会としては初めての試みとして、被災地スタディツアーを稲葉助教が企画・運営しました。沖縄など全国から15名の参加があり、閉上の記憶（名取市）を中心に被災地巡検を行いました。



機器展示会場



災害研展示の様子



教育講演（佐々木宏之助教）



被災地スタディツアー（閉上）

文責：稲葉洋平（災害医学研究部門）